

### Ⅲ ひきこもり群・ひきこもり親和群・一般群の定義と推計 及びひきこもり傾向群の設定

ひきこもり群及びひきこもり親和群並びに一般群については、内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」による定義を以下のとおり用いました。

#### 1 ひきこもり群

- 「問17 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
  6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
  7. 自室からは出るが、家からは出ない
  8. 自室からほとんど出ない

かつ

- 「問19 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6ヵ月以上と回答した者

であって

- 「問20 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で

8. 「病気（病名： ）を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者
9. 「妊娠した」を選択した者
11. 「その他（ ）」を選択肢、（ ）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

- 「問15 ふだんご自宅にいるときによくしていることに○をつけてください」で「10 家事・育児をする」と回答した者

を除いた人数

⇒ **7人（男性：5人、女性2人）（有効回答率に占める割合1.04%）**

なお、知多市の人口推計（平成26年9月1日現在）による15～49歳人口（37,072人）をもとに推計すると**386人**となる。

#### 2 ひきこもり親和群

- 「問25の11～14の4項目が、すべて「1. はい」又は、1項目のみ「2. どちらかといえばはい」と答えた者から「ひきこもり群」を除いた者

11. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
12. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
13. 嫌な出来事があると、外に出たくなる
14. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方ないと思う

⇒ **37人（男性15人、女性21人、無回答1人）（有効回答率に占める割合5.48%）**

なお、ひきこもり親和群は、「将来ひきこもる可能性のある人たち」という意味ではなく、「ひきこもり群」と同じような意識や考え方の傾向を持っているという意味で、「親和群」と規定されている。

知多市人口推計（平成26年9月1日現在）による15～49歳人口（37,072人）をもとに推計すると**2,032人**となる。

### 3 一般群

■回答全体からひきこもり群及びひきこもり親和群を除いた者で、問25における11～14の項目についてすべて回答している者

⇒629人（有効回収率に占める割合：93.2%）

#### [参考]内閣府及び他の自治体との比較

項目	知多市	内閣府	豊中市	横浜市
標本数	2,000人	5,000人	4,819人	3,000人
対象年齢	15～49歳	15～39歳	15～39歳	15～39歳
回収数 (率=回収数/標本)	675人 (33.8%)	3,287人 (65.7%)	1,845人 (38.3%)	1,386人 (46.2%)
ひきこもり群 の出現率	1.04%	1.79%	2.01%	0.72%
ひきこもり親 和群 の出現率	5.48%	3.99%	5.04%	4.55%
実施時期	平成26年9月	平成22年2月	平成22年11月	平成24年8月

### 4 ひきこもり傾向群の設定

当初本調査では、平成22年の内閣府調査で定義されたひきこもり群と、他群（ひきこもり親和群、一般群）との比較の中で分析・検証を行う予定であった。しかし、本調査から得られたひきこもり群は7人と、母数が少なく十分な調査分析・検証が困難で、かつ、個人のプライバシーが特定される危険性もあることから調査分析の視点を少し広げ、サンプル数を増やすこととした。新たな視点としては、これまでひきこもりの概念から除かれてきた統合失調症や家事・育児などを理由にひきこもり状態にある者を加えた点である。

ひきこもりとは、社会から孤立し、長期間に渡って家族以外との対人関係がない状態である。であるならば、その孤立状態に着目して、若者の意識傾向を分析・検証する必要性があると考え、新たにひきこもり傾向群を設定することとした。

ひきこもり傾向群とは、ひきこもり群Aとひきこもり群Bを合わせた概念で、以下のとおりである。

#### ①ひきこもり群A

内閣府が定義するひきこもり群のことである。つまり問17「ふだんどのくらい外出しますか」について、「自分の趣味に関する用事のみだけ外出する」、「近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」のいずれかを選択した者のうち、問19で「現在の状態となってどのくらい経ちますか」で6ヶ月以上を選択し、統合失調症や家事・育児などを除いた7人を「ひきこもり群A」とした。

特徴的なのは性別では男性が71.4%、年齢では40代が57.2%、同居は母親との同居が57.1%、ひきこもり期間では7年以上が57.1%である。つまり40代の男性で未婚者が多く、高年齢化・長期化傾向にある。また、相談意欲は低く、学校や家庭で不自由さを感じ、自己肯定感が低い傾向にある群である。

#### ②ひきこもり群B

問17「ふだんどのくらい外出しますか」について、「自分の趣味に関する用事のみだけ外出する」、「近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出な

い、「自室からほとんど出ない」のいずれかを選択した者のうち、問19で「現在の状態となってどのくらい経ちますか」で6ヶ月以上を選択し、ひきこもり群Aで除いた統合失調症や家事・育児などを理由にひきこもりの状態にある11人を「ひきこもり群B」とした。

特徴的なのは、性別では女性が81.8%、年齢では各年代（20・30・40代）に分布し、40代に45.5%と約半数みられたことである。また、同居は配偶者との同居72.7%、子どもとの同居45.5%、ひきこもり期間は5年以上45.5%である。つまり女性で既婚者・子どもとの同居が多いことからいわゆる主婦を中心とした層である。また、ひきこもり群Aと同様に相談意欲は低く、学校や家庭で不自由さを感じ、自己肯定感が低い傾向にある。

本調査の分析・検証においては、ひきこもり群Aとひきこもり群Bという異なる性質を持った群を合算（ひきこもり群A+ひきこもり群B）してひきこもり傾向群を設定したため、両郡（ひきこもり群Aとひきこもり群B）の特徴が反映されない側面もある。しかし、その点については、「ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較分析（主要箇所の抜粋）」を参考資料として添付し、補完するものとする。

今回の調査においては学校・家庭での経験、家族との愛着関係、自身の内面感情、社会・自立の価値観など多くの面でひきこもり群Aとひきこもり群Bに共通項が確認できたため、両群を合わせた「ひきこもり傾向群」を用いて、他群（ひきこもり親和群・一般群）との比較分析・検証を行うものである。

## 5 ひきこもり傾向群の位置づけと調査分析の分類整理

### ■ひきこもり傾向群の位置づけ

項目	区分	外出頻度	ひきこもり期間	ひきこもりの理由
ひきこもり傾向群	ひきこもり群A (内閣府のひきこもり群の定義を準用)	①自分の趣味に関する用事するとき又は近所のコンビニなどには出かける ②自室からは出るが家からは出ない。 ③自室からほとんど出ない	現在の状態となって6ヶ月以上経過	<u>統合失調症や妊娠並びに家事・育児などを除いたひきこもり状態にある人</u>
	ひきこもり群B			<u>統合失調症や妊娠並びに家事・育児などを理由にひきこもり状態にある人</u>

### ■ひきこもり傾向群を用いた調査分析の分類整理

内閣府の定義を準用した分類		知多市の調査分析の分類			
ひきこもり群	7人		ひきこもり群A 7人	ひきこもり傾向群	18人
			ひきこもり群B 11人		
ひきこもり親和群	37人	➡ひきこもり群B 該当者3人	ひきこもり親和群		34人
一般群	629人	➡ひきこもり群B 該当者8人	一般群		621人
どの群にも属さない人	2人		どの群にも属さない人		2人
合計	675人		合計		675人